

(別添3)

【山形県南陽市】
校務DX計画

「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」の結果を踏まえ、教育委員会では以下の3つの観点において校務の見直しとDX化に取り組んでいる。

1 汎用的クラウドツールと校務システムの一層の活用

令和2年度に構築したGIGAスクール構想の環境整備以降、児童・生徒の協働学習ツールとしてのGoogle for Education等、校務と学習の両面でその活用を拡大している。

校務や委員会主催の研修においては、従来のファイル共有からクラウドツールを活用した情報共有への移行を進めており、会議や研修資料等についてペーパーレスでの提供を推奨している。また、学校における会議や研修でのクラウド活用の推進状況を把握し、全ての学校で校務や研修におけるクラウド活用を推進する予定である。

令和2年度より統合型校務支援システムを導入しており、教務系(成績処理、出欠管理等)、保健系(健康診断票)、学籍系(指導要録等)など幅広い業務で利用している。

2 文書の送付・保管のデジタル化

教育委員会では、学校との文書の授受や簡易な連絡手段について検討を行ってきた。教育委員会と学校の一部の文書等の送付を統合型校務支援システムのグループウェア等を活用することで、迅速かつ正確に情報伝達が行えるようになった。紙媒体の利用を残しているものについては、デジタルへの移行を前提に、文書の性質を考慮したうえで適切な授受・保管方法の検討を行う予定である。

さらに、教育委員会事務局と学校管理職とが連絡・共有できる業務用チャットツールを導入し、緊急性の高い連絡については、出張先等を問わず対応できるようになっている。

3 FAX・押印等の制度・慣行の見直し

災害時やネットワークの不具合時など、FAXの方が効率的な場合を除き、FAXの原則廃止に向けて、学校や関係機関に対し、教育委員会からの慣行見直し依頼を継続的に行っていく。

また、教育委員会内で押印を求めている業務や書類の有無と見直しの可否、見直しができない場合の理由についての現状把握を行い、文書の性質を考慮したうえで、押印のルールや適切な授受・保管方法の検討を引き続き行っていく。